

思います。特に三角とか四角になっている部分に関してですね。いかがでしょう。

A : (東電) はい、こちらは少し、別添 3 のページ数で言いますと 8 ページのところから、第 6 章、添付資料 (1) 手順書適応状況表という形でまとめています。左側に日時と操作、それからどこが対応するかという手順書、それから手順書の適応状況という比較表でございます。結論に関しましては、右から二番目の丸とかバーとか四角が書いてある所が私どもの判断が書いてある所でございますけれども、左側の、例えば 3 月 11 日の 14 時 46 分に原子炉がスクラム。それから全制御棒全挿入。MS I V 閉といったようないわゆるプラントの動きがございますけれども、そこに関しましては事故時運転操作手順書の、ここは AOP って書いてございますが、これは事象ベースの略称でございます。そのところで、操作項目がこういった所の記載がございます。操作員 A が原子炉スクラムの確認・報告を行うということで、確認すべき警報名称ですとか、指示値の状況、それから弁の開け閉めの状態ですとか、そういった所を確認するって項目がございます。右側に手順書の適応状況という形で、こちらに関しましては私どもの方で手順書とおりに実施したということを確認したということになります。基本的にはこの左側で書いてございます内容が、確認できたという様なことで記載しております。それから 9 ページの方で、下側の方に行きますけれども。15 時 37 分に、DG 全台トリップ全交流電源喪失という所になりますが、ここはご存知この時刻に、大きな津波がいわゆる入ってまいりまして、建屋の中のディーゼル発電機その他電源装置に冠水したということから、手順書その物はここには存在してませんが、全交流電源喪失の手順としては AOP の中にあります。ただし、この手順書は直流電源の操作可能な設備ということで、アイソレーションコンデンサと HPCI 等の記載がございますので、四角ということで手順書を適応できる状況になかったという様な判断をさしていただいています。続きまして 10 ページの方にまいりますけれども。17 時 30 分に DDFP ということで、これはディーゼル駆動の消火ポンプになります。注水手段がなくなっておりますので、対象操作手順書は SOP、シビアアクシデントの手順書に入っておりますので、その中の消火系 FP を使った操作ということになります。この中に一番上の所にごございますけれども、MD 消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプを起動するという状況でございます。こちらは、当然電源が全てない状況になっておりますので、使えるポンプとしてはディーゼル駆動消火ポンプ、DDFP という状況でございます。その他、GS 系から注入ラインに注水可能である事を確認すると言ったことが書いてございますが、全ての電源が落ちております